



みはら玉手箱



「平成27年度市民学芸員実践講座」は、実践講座の4年目となり、養成講座Ⅳ修了者と共に7つのグループを編成して活動を開始しております。

開講からの講演会記録

第1回 4月19日 開講式

- 講演「古地図のまちあるきアプリができるまで
ー『鳥取こちずぶらり』の事例ー」
講師 徳島大学 塚本章宏准教授
- 瀬戸内三原 築城450年事業について
築城450年事業推進担当室

第2回 5月31日 講演「三原の新開について」

講師 三原市文化財協会 橋本敬一会長

第3回 6月28日 講演「中世の市について」

講師 県立広島大学 鈴木康之准教授

第4回 7月12日 講演「日南市の文化財を生かしたまちづくりについて」

講師 日南市教育委員会生涯学習課 岡本武憲課長



〔第4回目の講座〕

各グループの活動予定

1. 情報発信グループ

三原市教育委員会文化課
のホームページ

「みはら玉手箱」

の第12号から継続発行します。

三原に残る「祭り」「各種石碑」「狛犬」
紹介と「おもしろクイズ」等とします。



4. 城下町体験グループ

文化財協会主催で一般市民にも参加を募集
する「城下町ウォーク」は本年も11月に開
催が予定されています。今年度で3回目にな
りますので、我々のグループは、昨年以上
に協力をするべく、コース選定から準備に
かかります。

2. 宮本常一写真収集グループ

平成25年度に「宮本常一の歩いた昭和
の三原」と題して、三原市民ギャラリー
で企画展示を開催しました。

今後は、宮本常一の生まれ故郷である
周防大島の協力もあおいで、企画展の継続
開催を目指します。

5. 城館体験グループ (新規)

一般市民も募集して平成26年度に実施し
た「新高山城跡見学会」は盛会でした。今
年度は同様の要領で「高山城跡見学会」を
開催すべく、高山城跡(古高)のマップづ
くりから準備に着手します。28年3月の見
学会開催を目標にします。

3. 三原古写真収集グループ

「古写真で見る三原情景」として、平成24
年度にVol.1ー古原写真館の残したものー
平成25年度にVol.2ー大正から昭和のあゆ
みーを発行してきました。いずれも旧市内
が対象だったので、今回は本郷・大和・久
井などの新市内に範囲を拡げて収集する
べく、進め方を検討中です。

6. 三原遺産研究グループ (新規)

私たちの周囲には、歴史の証として多く
の「遺産」が目の前に存在しています。
我々のグループは、これらの遺産を「人物」
「歴史」「自然」「民俗・芸能」「産業」
に分類して調査し、次世代に伝えたい三原
遺産としてまとめることにしました。今年
度はその第一歩として、その候補を列举・
分類することを目標に活動します。

【質問受付】この「みはら玉手箱」への質問等は
三原市教育委員会文化課
bunka@city.mihara.hiroshima.jp宛に
お寄せください

7. 市民学芸員運営グループ (新規)

各種講演会や展示会において、資料の
セット、受付、会場準備等を担当し、会
のスムーズな進行に協力します。

みはら おもしろクイズ

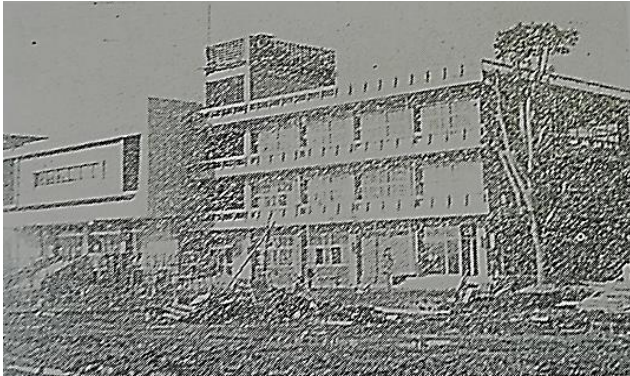


(解答は頁の欄外にあります)

文化会館 から 芸術文化センターポポロへ

音響効果に優れた巨大な直方体と客席から舞台が見やすい囲み型を融合させたことで有名なポポロでは、2015年7月25日(土)ロシア国立交響楽団、同10月18日(日)ブルガリア国立歌劇場と国際的に有名な楽団等の公演が切れ目なく続きます。

その前身の文化会館の設立から、ポポロへの建て替えの歴史をたどってみましょう。



三原市文化会館 (1966年～2005年)

●藝陽日日新聞…昭和41(1966)年1月24日付

「落成式は、23日午前11時から約600人の客をまねいて行われた持田市助役の開式の辞について桑木市長が式辞…(中略)…25日から29日まで盛りだくさんの祝賀行事を用意している。25日 NHKの公開放送「ジェスチャーおよびアトラクション」…白組＝柳家金語楼…紅組＝水ノ江滝子… 26日 広島テレビ公開録音「アベック歌合戦」…27日 広島テレビ公開録音「歌って踊って大合戦」…」

●当時の三原市民の気持ちは、千玉市議会議長の祝辞が代表していると思われます。「品位ある文化の殿堂として山の緑に浮彫りにされた姿は、私たち市民の誇りであり、文化都市を標榜するわが三原市の象徴であり…」

●大ホールの他、結婚式場や料理教室、生花教室、茶道教室、幼児室、大小会議室なども完備された当時としては最先端の設備でありました。



三原市芸術文化センターポポロ (2007年～)

●藝陽日日新聞…平成19(2007)年9月13日付

「こけら落としの10月14日は、午前9時半から五藤市長ら関係者、招待者、市民公募による当選者ら 1,200人が出席、記念式典をあげる。

続いて俳優倍賞千恵子さんの記念講演、夜は中村紘子ピアノリサイタルで初日を飾る。このほか招へい事業としてプラハ交響楽団、NHK公開番組、吉本新喜劇、など盛り沢山の記念イベントが組まれている。…」

●大ホールは音響効果に重点を置いた演劇鑑賞、コンサートに最適施設であります。

●文化会館にはなかった舞台前のオーケストラボックス、リハーサル室や喫茶店、屋上テラス、そして広いガラス張りから緑の芝生と青空が見えるホワイエと呼ばれる展示スペースは、パーティーやミニコンサート、プライダル等にも活用されています。

おもしろクイズ

ポポロの客席の最前列から4列は、床が昇降式です。オペラ等が演じられる時には、下降して座席のないボックス型ピットになって、大事な役目を果たします。このボックスを何と呼ぶでしょうか？ ヒントは本文にあります。

(ア) オペラボックス

(イ) オーケストラボックス

(ウ) ダンシングボックス

(エ) カラオケボックス



三原のお祭り



なごし おおはらえ

糸碓神社「夏越の大祓」神事

瀬戸内海に面し、長井の浦と呼ばれた風待ちの港として「万葉集」にも詠まれている三原市糸崎町。この地に豊前国宇佐八幡宮から応神天皇の産髪を勧請した事に創まるという広島県内で最も古いとされる神社があります。この糸碓神社で行なわれた6月30日の「夏越の大祓」神事を紹介します。



〔糸碓神社拝殿〕

“大祓”は祓い行事としては伊邪那岐命の穢れを祓う故事に発し、日本書紀持統天皇の頃から行われたと思われますが、それが伝統化し、さらに延喜式によって制度化された頃から「四時祭」のうち、6月晦日の大祓として固定化したものです。



〔鳥居に取り付けられた茅の輪〕

夏越の大祓とは、1年を2つに分け、それぞれの終りに、日常生活の中で知らず知らずの間に諸々「厄」が心身に積み重なり、この厄が災いや病気を引き起こすといわれ、神様にお祈りして祓い清め、心身ともに清らかな無病息災を祈る神事です。

また、大きな茅の輪をくぐることにより、心身が祓われ災難から逃れられるという言い伝えがあります。

『水無月の 夏越の 祓する人は 千歳のいのち

延ぶといふなり』各地の神社で行われる大祓式の時に、茅の輪をくぐりながらこの歌などが唱えられます。



〔拝殿で行なわれた茅の輪ぐり〕

茅の輪を祓のしるしの魔除けのものとしてくぐるのは、備後風土記の武塔神の故事に基づいているものであり、須佐之男命（天照大神の弟君）と蘇民将来にまつわる神話時代の故事に倣って無病息災を祈願するものです。

蘇民将来にまつわる神話時代の故事とは、『旅の途中で宿を乞うた武塔神を裕福な弟の巨旦将来は断り、貧しい兄・蘇民将来は粗末ながらもてなした。後に再訪した武塔神は、弟将来の妻となっていた蘇民の娘に茅の輪を付けさせ、それを目印として娘を除く弟将来の一族を滅ぼした。武塔神はみずから須佐之男命と正体を名乗り、以後、茅の輪を付けていれば疫病を避けることができると教えた。』といわれています。

（糸碓神社新報参考）



〔護符茅の輪口〕

今年の準備段階から、終わりまでを写真を使って紹介します。

① 平成27年6月14日 茅（ちがや）や 萱（かや）の刈り取り



出発前に〔神主さんのご挨拶〕



〔代表から今日の作業の説明〕



〔大平山中腹での萱刈〕



〔刈り取られた萱〕



10時40分頃から〔茅の選別〕



〔茅の選別と揃え〕

② 平成27年6月21日 の 大縄ない（長さ35m）茅と萱と稲藁で作る大縄



③ 護符の茅の輪作り



④ 鳥居への取り付け作業



⑤ 大縄の張り締め



⑥ 拝殿で行なわれる茅の輪くぐり(このやり方は糸碕神社独特の行事です)

輪くぐりとは、5～6名を一組として神役(かみえだち)が『夏越の祓えをする人は千歳のいのち延ぶというなり』と唱えながらバタン、バタン、バタンと前から後ろへ輪を廻す。



祝詞の奏上

この大縄の中で行なわれる

大縄を回す神役と
参拝者最後に神主の輪くぐり
(左から廻り、次に右に
回り、又左に廻って3回
輪くぐりをする)

⑦ 神事のしめくくり



神官を先頭に鳥居の茅の輪を左から8の字を書いて3回くぐる

鳥居の茅の輪を外す



人形の流し神事



流れてゆく人形



茅の輪、大縄の焼却

石碑が語る三原の歴史

新年度に入り今回から、三原市の周辺部に足を延ばしていきたいと思います。
西へと一足飛び、広島空港周辺を歩きます。平成5（1993）年10月29日開港以来年間250万人以上が利用する広島県の空の玄関口、世界に開けた国境の町です。
標高331m、管制官のいる空港としては日本一の高さにあるとのことで、霧が発生しやすく欠航になることも少なくありません。つい先日、平成27（2015）年4月14日アジアナ航空機の着陸失敗で計量着陸装置が損壊、全便欠航が続きましたが、現在では就航率はほぼ事故前に回復しているそうです。事故は霧もその一因と言われつつも原因は未だ解明されていないようです。
搭乗率が回復しつつある、空港内の出発ロビーからスタートします。



句碑・詩碑

厳島神社の陶板画



〔厳島神社 平山郁夫作 1993年〕

今回は句碑を空港周辺で見つけることができなかったため、言葉ではなく心に直接語り掛ける陶板画を取り上げます。



〔菓子博のシンボル模型 厳島神社〕

2015.6.07 撮影

このレリーフは高さ2.8m幅12mの大きな作品で出発ロビーに置かれています。現在、その前に2013年ひろしま菓子博のシンボル模型「厳島神社」が占拠しており、「厳島神社」二重奏となっています。

隣に掲げられた広島空港ビルディング株式会社案内板によれば、このレリーフは広島空港開港を記念し、尾道市瀬戸田町出身の平山郁夫画伯に原画制作を依頼、『空港を利用される皆様に強い感動を与えたい』との願いに対し、平山画伯は日本三景の一つ安芸の宮島「厳島神社」をモチーフに選ばれた、とあります。

記念碑



[思い出の碑]



〔表 面〕



〔裏 面〕

碑

底部幅	2.3m
底部奥行	0.64m
高さ	1.4m

台座

幅	2.5m
奥行	2.1m
高さ	0.5m

広島空港手前の中央森林公園のなかにある展望広場に飛行場を臨むように「思い出の碑」が立っています。空港のできる前、この用倉地区は海拔350mの丘陵でした。「本郷町史」によれば、昭和21（1946）年、戦後の食糧危機打開と戦災者引揚者の生活確保を目的とした、広島県緊急開拓事業により開拓地に指定され、最盛期には55戸が入植、県内では最大の成功を収めていたが、昭和61（1986）年に空港設置許可が下り、移転止む無しに至った、とあります。木の伐採から始まる開拓は困難を極め血と汗のにじむ努力の末に、青々とした水田風景が築かれたそうです。土と格闘しサルやイノシシ等と闘いながら営々と40年に亘って田畑を、故郷を創り上げてきたのです。そして空港建設という時代の新しい流れの中に呑み込まれていったのです。

絶ち難い想いを胸にこの地を後にした人々の、この記念碑に込められた想いを推し量ることなどできないでしょう。「蜷気楼の開拓誌」という本には苦難の歴史と築き上げた故郷への思いが綴られています。わずか30年前のことなのに多くの人はこの記念碑の存在すら知りません。30年も前のことなのでしょうか。

今、この地に立って「蜷気楼」と名付ける以外なかったであろう万感の想いの一端を垣間見た思いです。



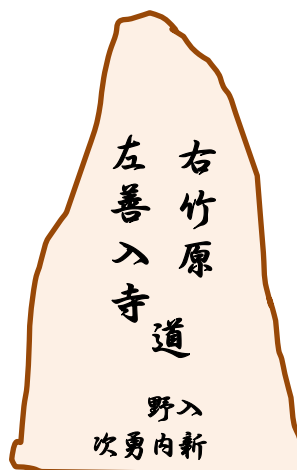
〔思い出の碑〕から空港を臨む



〔北方小学校用倉分校記念モニュメント〕

[道 標]

道 標



底部	幅	0.65m
	奥行	0.27m
高さ		1.16m

広島空港から入野へ抜ける広島県ふるさと村道、竹林寺用倉線を走ってみました。

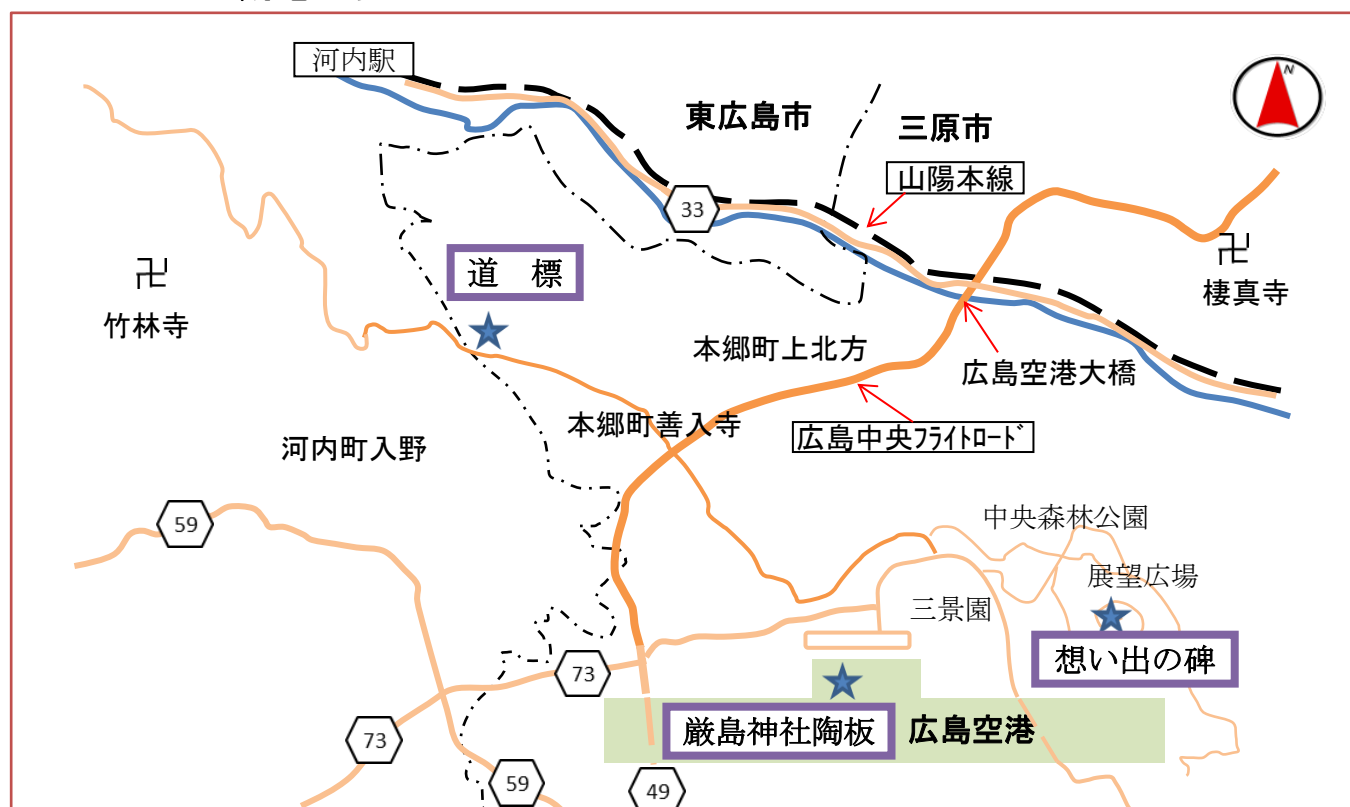
この新道、通行量が少ないのを幸いにゆっくり進んでいくと、ちょうど三原市

と東広島市の市境と重なるように走る旧道との交差点を見つけました。

交差点とは名ばかりでよほど気を付けないと通り過ぎてしまうような忘れられた山道です。この旧道を北に2m入ったところに西向きに立っています。時代はおそらく明治から大正時代と思われます。

ご遺族の方に伺うと新内勇次さんは、ご当主の三代前、曾祖父にあたる方だそうで、昭和13年86歳で亡くなるまで、「かなりのやり手だったそうな、寺へもようけ寄進して、大きな石碑が建つとよ、皆のためになることはどんどんやっとなつたそうな」、と話されました。この道標もその一つなのでしょう。竹原へ河内へ本郷へと通じていたようです。入野からこの山道を抜けて河内高校へあるいは、河内駅に降りて三原工業に通学したと聞きました。また当時煙草の生産が盛んで乾燥させるための焚き木を求めて善入寺用倉に足繁く通ったそうです。

概略マップ





三原にある狛犬



今回も、沼田東町方面の狛犬を紹介します。（神社の由緒説明文は広島県神社誌によります）

25. 釜山神社（旧称 釜山権現） 三原市沼田東町釜山坊谷

紀州熊野本宮新宮より勧請し、付近の生田神社とともに生田権現、釜山権現と称されました。



	(単位:cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	55	24.5	46.5
吽形	56	25	46
年代	大正	5 (1916) 年	
石工	忠海	米澤正吉	
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



26. 生田神社（旧称 生田権現） 三原市沼田東町釜山島井崎

紀州熊野本宮新宮より勧請しました。本郷町の楽音寺に伝わる、慶長5（1600）年の「毛利輝元寄進状」に「釜山両権現社領拾石余」とあるのは、付近に鎮座する釜山神社と当神社の両社のことです。



	(単位:cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	75	30	58
吽形	70	30	58
年代	天保	12 (1841) 年	
石工	本郷	弥平	
石材	花崗岩		
型	お座り型		



27. 一宮豊田神社（旧称 豊田一宮） 三原市沼田東町納所原

「芸藩通志」によれば、小早川氏の始祖土肥次郎実平公の勧請といえます。創建は建久元（1190）年といわれます。安芸国一宮の厳島神社と同祭神のため一宮と号します。



	(単位:cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	92	30	83
吽形	88	36	78
年代	天保10	(1839) 年	
石工	尾道	弥平、新八	
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



28. 湯原神社（通称 湯原八幡宮） 三原市小泉町湯原

小泉城主平朝臣常氏が創建したと伝えられますが、年代は不詳です。古くは字宮谷に鎮座したが、元禄16（1703）年の洪水によって流され、その後に宝永6（1709）年に湯原山山上に社殿を建てて奉斎しました。



	(単位:cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	72	27	61
吽形	76	25	56
年代	文久2	(1862) 年 8月	
石工	尾道	山源	
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		

